

昭和区の歴史文化を守る会の活動視察

- 日 時：平成25年8月24日（土）18：00～20：00
- 場 所：昭和区陶生町付近（市立大学病院北側）、みやみち地蔵尊

【昭和区の歴史文化を守る会について】



地蔵尊やかかつて京都を中心に日本全国で行われていた子どもの祭り「地蔵盆祭り」は、時代とともに姿を消しています。

この地の地蔵盆祭りも例外ではなく、はるか以前に行われなくなりました。地蔵尊は残っていますが、お世話をしている方の高齢化などにより消えゆく運命にあります。

また、名古屋弁で語り継がれている昔話も同じ運命にあります。

このような地蔵尊の保存や地蔵盆祭りを復活させ、歴史文化を次世代につなげていくことによって、地域や家族のきずなを深めるため活動を行っています。

【活動の様子】

地蔵盆祭り



この地のお地蔵さんは、名古屋市立大学病院の東北の角にあり、昔から宮参り往来の道しるべとして露座していた辻地蔵でしたが、今はお堂が建てられてその中に安置されています。

お地蔵さんの両側には『右みやみち、左なるみみち』と記されています。道標もあり、それにも『右あつたみち、左なるみみち』と記されています。



まずはじめに、子供たちは地蔵尊でお参りし、そこで渡されるぼんぼりを持って祭りの会場に向かいます。



お祭りの会場は2ヵ所あり、どちらも地元の方の家のガレージを利用した会員による手づくりのもので、ダーツに輪投げ、射的や風船釣りなど、大人には懐かしく、子どもたちには普段、なじみがないけどウキウキするものがいっぱいあります。

お祭りには、次から次にたくさんの子供たちがやってきて、それぞれが好きなプログラムに挑戦します。



子どもの大人もみんな、キラキラした顔をしています。



射的は特に人気で、行列ができていました。



また、午後7時と7時50分からの2回、会員による名古屋弁で語る紙芝居が行われ、手ぬぐいなどの小道具を使い、面白おかしく物語が披露されました。



子どもたちは、食い入るように紙芝居を見つめ、物語に引き込まれています。ここで使われた紙芝居もちろん、会員による手づくりです。



このお祭りを通じて、歴史文化を守るだけでなく、顔の見えるまちづくりを行い、子どもに元気を与え、地域のきずなを深めていきたいという熱い思いが感じられました。



おむすびの感想

団体の方も驚かれていましたが、今回の事業に100人以上のお子さんが参加されたことが、一番の嬉しい状況であったようです。開催前は、初の試みでもあるため、せいぜい20～30人の参加があればいいのではと予想されていたそうです。それだけ、地域に根付いた催しに期待も大きく寄せられているということを実感されたと思います。名古屋弁の語りによる手作りの紙芝居も、子どもだけでなく、大人も楽しそうに聞き入って見えました。

この活動を今後も継続して行うことで、顔の見えるまちづくりが実行され、地域のきずなを深めることができることを期待しています。



PECOの感想

子どもも大人も、すごーーく楽しそう♪

これが第一印象でした。祭りを催した会員も訪れた人々も笑顔が絶えません。

このお祭りには、100人を超える方が訪れ、会場には人があふれていました。町内を中心に参加を呼び掛けたようですが、子どもたちは学校などでほかの町内の友達を誘い、またその友達がほかの友達を誘う・・・そして多くの人が集まり、祭りを盛り上げていました。さすが子ども！嬉しいことを見逃しませんねえ。

また、地藏盆の幽玄な世界は、いつ時代も人の心をひきつける。きっと、この良さも子どもたちは何か感じ取っていることでしょう。いつの日か、次の世代につなげてくれればと思います。

住民のコミュニケーションが希薄になったといわれる昨今、この会のマインドがいつまでも受け継がれていくことを望みます。